

仙台大学 広報室



Monthly Report

第18回新体操演技発表会を開催—盛況裏に終了



仙台大学男女新体操競技部による最終演技＝仙台大学第五体育館

12月8日（日）、本学第五体育館で仙台大学男女新体操競技部主催の「第18回新体操演技発表会」が開催されました。

出演は、仙台大学男女新体操競技部・仙台大学新体操開放講座ジュニア新体操教室・仙台大学ブレイキン同好会に加え、大貫友梨亜選手(東京女子体育大学OG/2010第63回全日本選手権大会 個人総合優勝)・中津裕美選手(東京女子体育大学OG/2011第31回世界新体操選手権大会(フランス) 日本代表)・庄司七瀬選手(山形市役所/2005～2007インターハイ 個人総合3連覇)・三澤樹知選手(山形市役所/2010第62回全日本学生新体操選手権 個人総合優勝)にも賛助出演して頂き、発表会を盛り上げて頂きました。各選手たちはそれぞれの持ち味を十分に発揮し、見応えある演技で会場内を埋めた450名余を魅了しました。

最終演技が終わると、会場からは惜しめない拍手が送られ、第18回新体操演技発表会は盛況裏に終了しました。

その後、平成25年度「ジュニア新体操教室」の閉講式を終え、107名(男子9名を含む)の子どもたちが元気に帰途につきました。

仙台大学新体操開放講座ジュニア新体操教室を受講している女の子(3歳)は、「はじまる前の練習からお母さんと離れていたのが緊張したけれど、楽しかった」とはにかみながら話してくれ、お母さんは「大学生の皆さんが続けて演技を行っていて素晴らしいと思いました。大変な中、子どもたちの面倒も見てくださり、有難うございました」と感想を述べました。

※第18回新体操演技発表会の他の関連写真は2面に掲載。

< 目 次 >

| | |
|------------------------------|---|
| 第18回新体操演技発表会を開催—盛況裏に終了 | 1 |
| 平成25年度施設実習指導者研修会 | 2 |
| 健常者と障害者のスポーツ・レクリエーション交流事業 | 3 |
| 平成25年度海外留学研修報告会 | 4 |
| 通信制教育『小学校教諭二種免許状』取得希望者説明会を開催 | 7 |
| 学生の競技結果等 | 8 |

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、
広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

渡辺誠司 271

土生佐多 200

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp



仙台大学開放講座ジュニア新体操教室(女子)①



仙台大学開放講座ジュニア新体操教室(女子)②



仙台大学開放講座ジュニア新体操教室(男子)



仙台大学女子新体操競技部①



仙台大学女子新体操競技部②



仙台大学男子新体操競技部



仙台大学ブレイキン同好会



庄司七瀬選手(左)・三澤樹知選手



大貫友梨亜選手(右)・中津裕美選手

平成25年度 施設実習指導者研修会



シンポジウムの様子=仙台大学講義棟B300教室

平成25年12月7日(土)の午前10時～午後4時まで、宮城県介養協「平成25年度第12回施設実習指導者研修会」が、仙台大学B300番教室で開催されました。

今回は仙台大学が研修担当主管校として研修運営を行いました。研修会には施設介護実習の担当指導者が41名、宮城県内の介護福祉士養成校教員39名、在学生18名、合計96名の参加があり、午前中に基調講演を龍谷大学短期大学部准教授の川崎昭博先生が、「介護福祉教育における施設の実習指導について」と題してご講演をされました。

講演の内容は、先生が2009年～2011年にかけて取り組んだ研究(平成21年～平成23年度科学研究費補助金

(基盤C))での調査報告を基に、介護福祉教育の実習で教育効果をあげるため、モデル実習として実践を行い、具体的連携の在り方や方法等を示すとともに、その際に生じる課題や問題点を明らかにしたものです。この基調講演を受け、施設実習指導者3名(白東苑:岡本雄輔氏、サニーホーム:伊藤亜衣氏、杏友園:吉川しのぶ氏)と先生との間で、具体的な介護実習の指導内容についてのシンポジウムが行われました。シンポジストの岡本雄輔さんは、健康福祉学科介護福祉士養成課程の7回生であり、現在特別養護老人ホーム第二白東苑の施設管理者としてご活躍中です。岡本さんはシンポジウムの中で、「介護実習における学生指導は学生自身に問題があるわけではなく、施設側の実習指導体制の問題であり、そこに焦点を当てて今後取り組む必要がある。」と施設指導者に熱く語られました。午後は指導者が6グループに分かれ、同テーマでグループワークが行われました。研修会の最後では研修担当校代表として朴澤学長にご挨拶を頂きました。今回の研修は、はじめて具体的な介護実習の指導内容に踏み込んだ研修会であり、今後も引き続き、より具体的な研修が期待される内容となりました。

<報告:健康福祉学科 准教授 庄子幸恵>

平成25年度 文部科学省委託事業 健全者と障害者のスポーツ・レクリエーション交流事業



シャッフルボードの様子＝仙台大学第一体育館



スカットボールの様子

12月8日(日)、仙台大学第一体育館で仙台大学と柴田町社会福祉協議会との共催、宮城県レクリエーション協会主催の「平成25年度文部科学省委託事業 健全者と障害者のスポーツ・レクリエーション交流事業」が開催されました。

同事業は、交流イベントに参加した人が、スポーツ・レクリエーションを創る（企画を考え、試して、楽しむ）ことを楽しみ、仲間との交流が生まれ「交流イベント」の参加を重ねるたびに、仲間が増えたり、役割を持ってイベントに参加したりするなど、参加者が主人公の「交流イベント」になることを目的としています。（「交流イベント」は3回開催）

当日は、仙台大学の仲野隆士体育学科長（宮城県レクリエーション協会副会長）と仙台大学の学生ボランティアにもご協力頂き、障がいのある人とない人がスポーツ・レクリエーション活動を共に楽しみ、交流することで仲間づくりへとつなげていくために、ニュースポーツ10種目（カローリング、ペタンク、バグゴ、シャッフルボード、ユニカール、ネットパストラリー、スカットボール、ディスクゲッター、ラダーゲッター、リングキャッチ）をバイキング形式で実施しました。参加者たちは、一緒にニュースポーツを体験され、特に楽しかった種目は何度も体験し、あっという間に時間が過ぎていきました。

次回は、平成26年1月31日(金)に柴田町社会福祉協議会で開催致します。

＜寄稿：柴田町社会福祉協議会
OB稲荷智康（平成12年体育学科卒）
OB八島裕晃（平成18年健康福祉学科卒）＞

南條先生「全日本柔道女子監督就任祝賀会」



左から南條和恵監督(仙台大学女子柔道部)、OG五味奈津実選手、OG田中美衣選手、南條充寿全日本女子柔道監督(仙台大学柔道部総監督)＝サンシャイン青葉

12月14日(土)、サンシャイン青葉(柴田町船岡)で、柴田町柔道協会主催の「南條先生全日本柔道女子監督就任祝賀会」が開催され、宮城県内の柔道関係者

や本学関係者等約50名が集まり、本学南條充寿准教授の全日本女子柔道監督就任をお祝いしました。

祝賀会冒頭、南條先生に対し「仙台大学柔道部を強くした。仙台大学柔道塾は、地域に新しい文化と活力を与えてくれた。和恵監督の素晴らしい支えがある」（柴田町柔道協会 西條敏剛会長）「宮城県の誇りである。身体に留意され、これからも頑張ってもらいたい」（宮城県柔道連盟 佐藤幸二会長）「激務の仕事をごなしながら、学生の指導もしている。リオ・東京五輪に向けて頑張ってもらいたい」（仙台大学 朴澤泰治学長）「日本の女子柔道界に新しい風を吹き込んでほしい。活躍を期待しています」（柴田町 滝口茂町長）と主催者と来賓の方々から激励の言葉を頂きました。続いて、南條全日本柔道女子監督から関係各位へ感謝の言葉が述べられ、終始和やかな雰囲気の中で祝賀会が行なわれました。

なお、OG田中美衣選手(了徳寺学園職/平成22年体育学科卒)とOG五味奈津実選手(JR東日本/平成25年体育学科卒)もお祝いに駆けつけました。

平成25年度 海外留学研修報告会—4つの海外留学について学生が報告



挨拶する阿部芳吉副学長＝仙台大学第五体育館2階大会議室

12月11日（水）本学第5体育館2階大会議室において、学生たちによる「平成25年度海外留学研修報告会」が開催され、阿部芳吉副学長はじめ教職員・学生が多数参加しました。

【報告③】カヤニ応用科学大学協定校短期交換留学プログラム

日程：平成25年8月28日～9月28日

参加学生：岩佐めぐみさん(体育学科3年)

岩佐さんは初めに、1か月間の留学の成果として、自己紹介と研修概要を英語で報告しました。岩佐さんは、「あらゆる国の方とコミュニケーションをとれるようになりたい」という強い思いから、今回の研修に参加したと話しました。出発する前は、初めての海外や自分の英語力の乏しさに不安でいっぱいだったようですが、カヤニに着いてからはホストファミリーの方や現地の大学生・留学生の優しさに感動し、自分の気持ちを伝えるために積極的に授業に参加することができたと報告しました。



という強い思いから、今回の研修に参加したと話しました。出発する前は、初めての海外や自分の英語力の乏しさに不安でいっぱいだったようですが、カヤニに着いてからはホストファミリーの方や現地の大学生・留学生の優しさに感動し、自分の気持ちを伝えるために積極的に授業に参加することができたと報告しました。

【報告④】ハワイ大学アスレティックトレーナー研修アドバンスコース

日程：平成25年8月25日～9月1日

参加学生：

山崎可奈子さん(体育学科4年)・佐藤瑞季さん(体育学科2年)・三上千晶さん(体育学科2年)・田中里沙さん(体育学科2年)・鈴木多恵子さん(体育学科2年)・青木梨恵さん(体育学科2年)・森山翔太さん(体育学科3年)・遠皓樹藤さん(体育学科3年)・石橋広育さん(体育学科3年)・野澤翔平さん(体育学科2年)・外崎智海さん(体育学科2年)

今回アドバンスコースの研修に参加した11名の学生は、ハワイ大学の施設見学・授業参加、献体解剖や現地で活動しているトレーナーの方との交流等、非常に実践的な研修を受けました。献体解剖では、現地の大学院生の方が、実際に骨や筋肉を解剖する様子を見学でき、とても勉強になったそうです。また現地の授業は、学生は事前に授業内容をデータでダウンロードし、予習済みの状態から展開されるので、積極的に質問が飛び交っており、自分たちも見習って、今後のトレーナー活動に繋げていきたいと報告しました。



<報告：新体操競技部監督 新助手 河野未来>

【報告①】柔道イタリア研修

日程：平成25年7月17日～8月1日

参加学生：薬師神桃子さん(現代武道学科3年)

今回で3回目のイタリア研修を経験した薬師神さんは、被災地で柔道に取り組んでいる優秀な選手として、日本を代表して研修に参加しました。合宿では、現地の柔道愛好家の方や海外からの練習生、そして谷本歩実さん(アテネオリンピック・北京オリンピック柔道女子63kg級金メダリスト)・育実さん(元柔道選手)姉妹など多くの方との交流があり、とても有意義な研修だったと報告しました。薬師神さんは「必ず来年も研修に行き、また自分の成長した姿を見て頂きたい」と話しました。



【報告②】新体操競技部ベラルーシ研修

日程：平成25年6月16日～6月23日

参加学生：相馬京香さん(体育学科3年)・稲垣文李さん(体育学科3年)・鈴木のぞみさん(体育学科3年)・桑原玲美さん(体育学科2年)・古積亜矢子さん(体育学科2年)・杉木優衣さん(体育学科1年)・佐々木美優さん(運動栄養学科1年)

新体操競技部の7名の学生は、本学新体操競技部のエレナコーチの地元であり、新体操先進国であるベラルーシ共和国・ミンスク市での5日間の研修を報告しました。滞在期間中のほとんどの時間は、大学やジュニアクラブで練習に取り組み、とても大きな刺激を受けたそうです。練習後に、日本の文化について話したり、折り紙で鶴を教えてあげたり、ミンスクの大学生は非常に日本に興味を持っていたようでした。また、市内研修では、バレエやサーカス、美術館を巡り、美しいものに触れる機会が多くあり、とても感動した様子でした。



OB色川冬馬さんがイラン野球連盟代表監督(U-18/15/12)に就任

12月13日(金)、米国独立リーグなどで活躍したOB

いろかわとうま

色川冬馬さん(平成25年スポーツ情報マスメディア学科卒一宮城・聖和学園高校出)が恩師の阿部篤志講師と共に、2014年4月～イラン野球連盟代表監督(U-18/15/12)に就任予定報告として学長室を訪れました。

色川さんは「イラン野球の普及・発展のために貢献したい」などと抱負を語りました。

イラン野球の普及・発展のために貢献したい

学長室を訪れた色川さんに、イラン野球連盟代表監督(U-18/15/12)に就任することになった経緯や今後の抱負などを聞きました。

Q1.イラン野球連盟代表監督就任のきっかけは—

2013年7月までメキシコのリーグでプレーしていました。8月中旬に日本に帰国し、地元の少年野球チームを教えていたところ、知人からイラン野球の普及・発展のためにイランへ行って見ないかと誘われました。悩みましたが、覚悟を決めました。現地入りしてからは、ベースボールクリニックを行ったり、小学校を訪問したりして野球の普及に尽力しました。国際野球の支援をしている団体からイランで野球の代表監督を公募しているという情報を頂き、応募した結果、運よく選ばれ、イラン野球連盟よりイラン野球連盟代表監督(U-18/15/12)に任命されました。野球競技が2020年東京五輪で復活する可能性があり、同五輪出場を目標に、若い世代を代表チームまで育て上げ、東京五輪出場へ導いてもらいたいと頼まれました。

イランのキーシチュアイランドスポーツ連盟代表から記念品を受け取り、握手を交わす色川さん



Q2.イランでの苦勞は—

イランで野球を普及させるためには、まず野球道具が必要になります。しかし、イランでは野球道具を買える場所はありません。野球選手が道具を買えないことが一番の苦勞。もし、使わなくなった野球道具があれば、譲って頂ければ大変有難いです。

言語はペルシャ語ですが、通訳を介して英語でコミュニケーションを図っています。

Q3.理想の監督像は—

ベニー・カスティージャ氏(2000年に最高監督賞を受賞し、2003年にはフロリダ・マーリンズ(シングルA)を率いてワールドチャンピオンに導いた名将)の生きる凄まじさに共感しています。あらゆる人種を一つにまとめ上げ、文化を尊重し、多人数種多言語の中で強いチームを作り上げてきたカスティージャ氏から学び、私も良いチームを作りたいです。

Q4.今後の抱負は—

イランは西アジアに属しています。イラン人は、ホスピタリティー溢れる魅力ある人たち。野球を通してイランの人々を知ってもらい、イランと世界を結ぶ架け橋になりたいです。



イランの子どもたちと共に(中央白いTシャツ:色川さん)

PROFILE

色川 冬馬(いろかわ とうま) / イラン野球連盟代表監督(U-18/15/12)



1990年1月2日生まれ。宮城県仙台市出身。

宮城・聖和学園高校に入学。仙台大学体育学部スポーツ情報マスメディア学科卒業。仙台大学硬式野球部は1年時に退部。2010年大学を1年間休学して、米大リーグ入りを目指してカリフォルニア州で行なわれたサマーリーグに参加したが、大リーグへの挑戦は叶わなかった。大学卒業後は、米国独立リーグやプエルトリコ・メキシコでプレー。2014年4月～イラン野球連盟と正式にイラン代表監督契約を締結。イラン野球代表監督として、国際的な架け橋になることを誓う。

2013年4月～3月までの毎週木曜日23:30～FM太白ラジオ(78.9Hz)の「冬馬とベースボール」に出演中。

大和町立鶴巣小学校で ニュースポーツ指導「スポーツテンカ」



12月12日（木）大和町立鶴巣小学校において、昼休みの時間を利用してニュースポーツ指導が行われました。これは大和町より健康増進事業の一環として本学のスポーツ健康科学研究実践機構に依頼があったもので、仲野教授と同ゼミ所属3年生（スポーツマネジメントコース）の学生18名が中心となり、現在月1回定期的に指導を行っています。学生たちは僅かな時間で子どもたちと良好な関係を築き、ごく自然に接していました。この点は本学学生の素晴らしい一面に違いありません。

同小学校の通学路には幹線道路が多いため、登下校時の安全確保から児童の7割以上が自家用車で送迎されている環境にあり、児童の運動不足に伴う体力低下が懸念されています。

これまで鶴巣小学校への運動指導は3回実施しており、経験したことが無いニュースポーツや運動遊びという楽しい身体活動を通じて、自発的な運動習慣が定着していくよう働きかけをしています。

仙台大学のバスが到着すると、子供たちが窓から手を振り出迎えてくれました。全校生徒約100名が校庭に集合し、準備体操の後各学年に分かれて「スポーツテンカ」を実施しました。これは、日本レクリエーション協会と吉本興業、そして仙台大学が共同開発したニュースポーツです。スポーツテンカの専用ボールは、突き指をしにくい利点がありどの学年の子どもたちも恐がらずボールを受け取ることができます。ポイント制のルールで勝負が決まる「スポーツテンカ」。1対1で難しいキャッチが決まると、誇らしげな表情を見せたり、順番待ちで並んだ子どもたちからも歓声があがっていました。

児童の運動習慣の定着には学校側の協力も不可欠ということで、鶴巣小学校の体育主任の先生にお願いし、休み時間も自由に使えるようボールを常時設置し声掛けして頂いているということです。

今後も継続的にニュースポーツを中心に様々な運動指導を行い、運動の楽しさや身体を動かす心地よさなどを子どもたちに伝えていく予定です。



鶴巣小学校昇降口前には学生紹介コーナー



年齢に適したボールの大きさを測定



いしばしゆきの

石橋雪乃さん

(体育学科マネジメントコース3年—岩手・大船渡高校出)写真左

4年生を担当しています。これまで3回継続的に指導を行ってきましたが、回数を重ねるごとにぐんと上達していると感じます。子どもたちともだんだん親しくなり、名前を覚えてくれて「モコ先生」と呼んでもらえるのがとても嬉しいです。

いしかわみか

石川美香さん

(体育学科マネジメントコース3年—宮城・聖和学園高校出)写真右

スポーツテンカのポイント加点のために、子どもたちはいろいろなキャッチに挑戦しています。小学校の先生方も意欲的にルールを覚えてくださろうとしていて熱意がとても伝わるので、今後も継続して参加して行きたいと思います。

台東大学訪問



12月3日(火)から5日(木)にかけて、朴澤学長とともに台湾・台東大学を訪問しました。

今回の訪問の主な目的は、毎年相互に留学生を派遣している台東大学との協力関係の確認と情報交換、および、現在台東大学へ留学中の体育学科3年佐々木芽衣の生活状況の確認でした。

また、明成高校普通科情報表現コースの3年生の修学旅行も同日程で台東大学及び台東大学付属高校を訪問しており、その行程にも一部同行することができました。

最初に訪問した台東大学付属高校では明成高校の生徒が付属高校で行われている授業体験や歌などを通じて交流していました。約1時間という短時間でしたがさすがに同年代、言語こそ違えども楽しそうな雰囲気でも打ち解けている姿は非常に印象的でした。

台東大学では「熱烈歓迎」を受けた後に、懇談会が開催されました。その折、台東大学の劉金源学長、朴澤泰治学長がそれぞれ挨拶を述べられ、特に劉学長からは、本学へ留学している学生に対する手厚い対応について感謝の言葉を頂きました。

また、同席した佐々木芽衣さんからは中国語による自己紹介のほか、劉学長からの質問に中国語で答えている場面もあるなど、語学も身に付けながら、充実した留学生活を送っていることが伺え安堵しました。

更に、今年8月まで本学に留学していた現地の学生の紹介場面では、それぞれが「日本での生活は大変充実していた」「もう一度仙台大学へ行きたい」などの感想を述べていました。

本学と台東大学とは平成15年に協定を締結して以来、毎年盛んに国際交流が行われております。今後ますますその関係が深まっていくことでしょう。

今回の訪問にあたり、梁忠銘先生(台東大学教授)には大変お世話になりました。この場をお借りして御礼申し上げます。

<報告：事業戦略室 石森靖明>

通信制教育『小学校教諭二種免許状』取得希望者説明会を開催



通信制教育の学習の進め方や心構えについて説明する
渡邊宣隆教職支援センター長＝仙台大学講義棟B204教室

12月20日(金)、仙台大学講義棟B204教室で「通信制教育『小学校教諭二種免許状』取得希望者説明会」が開催され、中等教職課程(保健体育)を履修している1年生及び2年生約50名が参加しました。

参加学生たちは、通信制教育の学習の進め方や心構えについての説明に聞き入り、熱心にメモを取っている姿も見られました。

参加学生たちに対し「目先のことを考えず、チャレンジしよう」(渡邊一郎事業戦略室長)、「覚悟がないと続かない。厳しさを乗り越えられる強い意志が必要」(渡邊宣隆教職支援センター長)、「努力。そして時間をかけてほしい。一生懸命努力する人を応援したい」(渡邊康男教授)、「大事なことは、君たち自身が勉強が好きかどうかを自問自答することだ。小学校の現場では体育のできる先生を求めている」(久能和夫教授)と話されました。

平成18年度から明星大学通信教育部との教育業務提携により、小学校教諭二種免許状の取得が可能となっております。本学では小学校教員採用試験において、毎年現役合格者を輩出するなど実績をあげています。

<同窓生関連情報>

S.U.N.の恒例企画「OBからのメッセージ」でご登場(第13号)頂きました、専修大学教授兼同大スポーツ研究所所長のOB佐藤雅幸さん(S53年体育学科卒)の次男・文平さんがプロ転向から6年目で「全日本テニス選手権男子ダブルスで優勝」を果たしました。

文平さんは、現在、トヨタチャレンジャーに参戦しています。佐藤雅幸・文平親子に、ぜひご注目ください。写真は家族での集合写真です。左端が母・OGかほるさん(S55年体育学科卒)、中央が文平さん、右から2番目が父・OB雅幸さん。



男子バレーボール部、悲願の全国ベスト8入りならず

第66回全日本バレーボール大学選手権大会が12月3日（火）から大田区総合体育館（東京都）を主会場として始まり、仙台大学男子バレーボール部は、予選リーグで平成国際大学と大阪体育大学をそれぞれセットカウント2-0のストレートで下し、見事1位通過で決勝トーナメントへとコマを進めました。決勝トーナメント2回戦からの登場となった仙台大学は、愛知大学と対戦。第一セットを20-25で落とす苦しい展開となりなしたが、第二(25-16)・第三(25-17)セットを連取し、逆転勝ちを収めました。3回戦は中京大学と対戦し、二セット連取(25-20、25-18)のストレートで破り、ベスト16入りを果たしました。

12月6日（金）、大田区総合体育館で4回戦が行なわれ、仙台大学はベスト8をかけて関東の強豪・法政大学と対戦しました。仙台大学は、2セットを先取(25-19、25-19)したものの、3セット目以降の3セット(17-25、23-25、12-15)を奪われ、逆転負けを喫し、ベスト8入りを逃しました。

しかし、東北大学リーグ初のベスト16入り（シード権獲得）を果たし、特に法政大学戦では白熱した好試合が展開され、その健闘ぶりは次の大会へ繋がる成果を感じさせました。

引き続き、仙台大学男子バレーボール部への熱い応援を宜しくお願い致します。

男子ハンドボール部、東北総合ハンドボール選手権宮城県予選会「第三位」一東北大会出場決める



芳賀(4)が豪快なシュートを決める=仙台大学第二体育館

12月7日（土）、仙台大学第二体育館で「第50回東北総合ハンドボール宮城県予選会」の三位決定戦が行なわれ、本学男子ハンドボール部は、クラブチームの独眼竜と対戦しました。

仙台大学は序盤、苦しい時間帯もありましたが、GK

ごうこかずひろ
郷古和寛（体育学科1年一宮城・聖和学園高校出）が好セーブを連発し、流れを徐々に取り戻しました。エース

たかはしかずき
高橋和希（体育学科1年一北海道・函館工業高校出）の

たにぐちこうすけ
ミドルシュートや谷口航輔（体育学科1年一福島工業高

はがほしや
校出）・芳賀誉士弥（体育学科1年一宮城・聖和学園高校出）の連打でリズムに乗り16-13と3点リードで前半を折り返しました。

仙台大学は、後半さらに得点を重ね、33-21で快勝。3位を勝ち取り、東北大会出場の切符を手に入れました。

本学ハンドボール部の桑原康平監督は、「相手が走らなくなったときに、速攻が上手く決まったことは評価できる。速攻練習の成果が出た」と話し、1年生主体のチームの成長に手ごたえを感じていました。

男子ハンドボール部、宮城県学生ハンドボール選手権 準優勝



高橋和希(5)（体育学科1年一北海道・函館工業高校出）がGKのタイミングを外してループシュートを決める=仙台大学第二体育館

12月8日（土）、仙台大学第二体育館で「宮城県学生ハンドボール選手権」の準決勝・決勝が行なわれ、本学男子ハンドボール部は、準決勝で東北工業大学に42-29で大勝し、決勝で東北福祉大学と対戦しました。

決勝前半は、互いに点を取り合う一進一退の攻防が繰り返され、12-14と2点ビハインドで折り返しました。

後半、疲れの見え始めた仙台大学は、徐々に点差を広げられ、23-32で試合終了。

惜しくも優勝を逃しましたが、今年の仙台大学男子ハンドボール部は、1年生主体のチーム。今後の活躍が期待されます。引き続き、本学男子ハンドボール部への温かい声援を宜しくお願い致します。

男子サッカー部、インカレ初戦で敗退



試合前の仙台大学男子サッカー部イレブンとエスコートキッズ



前半、FW西村(11)がゴール前で直接フリーキックを放つ
=Shonan BMW スタジアム平塚

12月15日(日)、Shonan BMW スタジアム平塚(神奈川県平塚市)で「第62回全日本大学サッカー選手権大会(インカレ)」1回戦が行なわれ、本学男子サッカー部は中京大学と対戦しました。

前半立ち上がり仙台大学は、中盤でボールをつなぎますが中央を固める中京大学守備陣を前に、ペナルティーエリア内に進入できず。前半

にしむらこうじ
20分頃にはFW西村光司(体育学科4年-ベガルタ仙台ユース出)がゴール前で直接フリーキックを放ちますが、惜しくも相手GKにセーブされました。前半40分頃、カウンターから相手に決められ、0-1で前半が終了しました。

早く同点に追いつきたい仙台大学は、後半、
にしやゆうき
ボールを動かせるMF西谷優希(体育学科2年-茨城・鹿島学園高校出)を投入し、攻撃のチャンスを作りました。後半10分過ぎ、西村が相手DFをかわし、強烈なミドルシュートを放ちましたが、惜しくもクロスバーを叩きゴールはなりま

みねぎしひかる
せんでした。また、後半途中出場のMF嶺岸光(体育学科4年-宮城・聖和学園高校出)がドリブルで持ち込み、ペナルティーエリア内でシュートを放ちますが、相手GKの好セーブに阻まれ、得点に至りませんでした。

仙台大学はミスから相手に追加点を許し、後半終了間際にはPKを与え0-3で敗れました。

全国で勝つことの厳しさを痛感した仙台大学イレブン。次年度に向け、チーム一丸となって前進して参ります。

ボブスレー・リュージュ・スケルトン部の黒岩俊喜ーソチ冬季五輪を目指す



ソチ冬季五輪に向け、練習に汗を流す黒岩
=仙台大学ボブスレー・リュージュ・スケルトン人工練習場

12月18日(水)、ソチ冬季五輪を目指す本学ボブスレー・リュージュ・スケルトン部の黒岩俊喜(運動栄養学科2年-神奈川・橘高校出)がワールドカップ

(W杯)レークプラシッド大会を終えて一時帰国し、テレビ・新聞各社からの取材を受けました。

今シーズンのボブスレー日本代表チーム4人乗りの主な戦績は、ノースアメリカンカップ第6戦(12/5)2位、ワールドカップ最終日(12/16)19位が最高成績。現在、黒岩は4人乗りのセカンドマンを務めています。セカンドマンは、そりを加速させるためのパワーと脚力が必要とされるポジション。

取材陣に対し黒岩は「自分の長所はスタートダッシュ。さらに磨きをかけ、日本チームがソチ冬季五輪の出場権を獲得できるように貢献したい。五輪に出場して、今までお世話になった人たちに恩返しをしたい」と語りました。

また、12月22日(日)に行なわれた全日本ボブスレー選手権男子二人乗りで3位に入りました。

年明けの吉報に期待が高まります。

OG小室希選手(仙台大職)が5連覇—全日本スケルトン選手権



小室選手の気迫のスタートダッシュ＝長野スパイラル

12月22日（日）、長野市ボブスレー・リュージュパーク（スパイラル）で2013／2014 全日本スケルトン選手

こむろのぞみ

権が行われ、OG小室希選手（仙台大職／H22年仙台大学大学院修了—H19年体育学科卒—宮城・白石女子高校出）が2回の合計タイム1分52秒15で大会を制して、堂々の大会5連覇（優勝は6回目）を達成しました。

小室選手は大会終了後「ソリとの一体感が少ない。集中力の高め方に満足していない」と課題を挙げ、「心技体をもっと高めて、課題を一つひとつ解決していくことがソチ冬季五輪につながる。ソチを目指していきたい」と力強く今後の抱負を語りました。

ソチ冬季五輪を目指す、小室希選手への温かいご声援を宜しくお願い致します。

